

平成22年5月19日現在

研究種目：特定領域研究
研究期間：2005～2009
課題番号：17083036
研究課題名（和文） 地方志及び碑記の史料論的解析を主とした近世中国東南沿海地方の地域性と歴史性
研究課題名（英文） Regional and historical characteristics of Southeast coastal area in pre-modern China from the analysis of local gazetteers and stone inscriptions as primary historical materials
研究代表者 須江 隆 (SUE TAKASHI) 日本大学・生物資源科学部・准教授 研究者番号：90297797

研究成果の概要（和文）：近世中国東南沿海地方、特に寧波を中心とする浙東地方の地方志・碑記を系統的・項目別に分類し、地域史研究の史料的基盤を整備した。また地方志・碑記に関する史料論的研究や計量的解析作業を深化させ、該地の地域性・歴史性の一部が解明された。地方志・碑記研究の現状と課題も明確にし、それら史料の解析手法についても、比較史的視点から知見を呈示できた。かかる成果は海外にも発信され、国際研究者交流が飛躍的に進展した。

研究成果の概要（英文）：For this project, we examined and organized local gazetteers and stone inscriptions exhaustively and analyzed the contents of the records as historical materials. By doing so, we clarified the regional and historical characteristics of the Zhedong area centering around Ningbo with those of Fujian coastal region. We aimed at establishing fundamental historical materials to be used for the examination of the selected region as well as creating a new approach of analysis and usage of such materials.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	3,000,000	0	3,000,000
2006年度	2,600,000	0	2,600,000
2007年度	2,900,000	0	2,900,000
2008年度	3,000,000	0	3,000,000
2009年度	1,400,000	0	1,400,000
総計	12,900,000	0	12,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：中国史、史料論、地方志、石刻史料、碑文学、国際研究者交流、多国籍

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 中国東南沿海地方は、東アジア海域世界で如何なる地域性・歴史性を具有し現在に至るのだろうか。その課題解明の手掛かりを我々に提供してくれるのが地方志及び碑記である。中国では古来より一地方の地理を記した地方志が作られたが、唐までは地図を中心とする図経が主であった。豊富な記述内容をもつ地方的性格を帯びた地方志が州県

レベルで盛んに編纂されるようになるのは、北宋末期以降からであり、その傾向は明清に至って一層顕著となる。かかる地方への関心の高まりは、地域社会の成熟を背景としたが、地域で発展した祠廟・寺院・学校・社会救済・橋梁等に関わる諸事業については、内容が刻石され、碑記として残されることにもなった。

(2) 本研究は、従来の中国史研究では殆ど未

解明であった基層社会の論理を物語る地方志・碑記を、系統的・計量的分析手法に加え、叙述・刻印された過程・目的をもふまえた解析法によって分析し、中国東南沿海地方の歴史性の解明を期するものである。欧米の系統的・計量的分析法をより発展させ、かつ我が国の高度な文献史料学に裏付けられた解析法を駆使した研究は、当該史料の利用頻度の高さの割には、内外にわたり乏しい状況にある。また本研究は、地方志・碑記を断代的・部分的に分析するのではなく、それらが宋代以降に豊富な記述内容を伴う点や何度も重修される特質を生かし、長期的・皆的に解析を行うものである。従って地方志・碑記の史料性の解明のみならず、研究対象とする地方の地域性・歴史性の抽出も見込まれる。

(3) 本研究は、近年の中国地域史研究の進展に伴い、利用頻度が高まった地方志・碑記の網羅的・体系的な研究実現のために企画された。この研究の遂行により、事例研究に止まる当該研究を、より巨視的な観点から地域を捉え直すという新次元へ押し上げることになり、寧波を中心とする浙東地域が近世東アジア海域世界に果たした役割が解明される。また地方志・碑記の分析法をめぐっては活発な議論が存在しないが、新たな方法論を内外に発信し、海外の研究者とも討論をすることにより、当該史料の斬新な活用法・可能性が抽出され、新たな文献資料学の創生につながる。

## 2. 研究の目的

(1) 近世中国東南沿海地方における地域性・歴史性を解明するために、地方志・碑記の皆尽調査と系統的・計量的分析、史料論的解析を行い、将来的なデータベース化も視野に入れた基礎史料の構築を目的とする。

(2) 当該地方の地方志・碑記に関わる残存史料を、宋から清までを射程に入れて網羅的に調査・整理した上で、叙述内容に解析を施し、寧波を中心とする浙東地方の地域性・歴史性を、福建等沿海地域の特質と比較しつつ、浮彫にすることも目的とする。

(3) 当該史料を研究対象とする異分野の研究者や海外の研究者との学術交流を推進し、当該史料の斬新な解析手法の確立を目指す。

## 3. 研究の方法

(1) 地方志については、悉皆調査・整理と系統的分析、序跋文等の分析を中心とした史料の生成論的解明を主として研究代表者の須江隆が、地方志中の叙述に含まれるキーワードの抽出作業と計量的分析を主として研究分担者(連携研究者)の伊原弘が担当する。碑記については、須江・伊原の双方が項目ごとに

担当分野を定め、調査・蒐集・整理にあたり、史料論的解析を各自が行う。

(2) 上記(1)の作業にあたり以下の点に留意する。①地方志については残存状況を皆的に調査し、行政区画ごとに系統的に整理する。序跋文を参照し、作成の痕跡を確認できるものも加えていく。②碑記についても網羅的に調査し、時代・地域ごとにどの種の碑記が残されたのかを、分類項目を設定して整理する。③当該地方の歴史性を読み解く上でのキーワードを設定し、それらが地方志・碑記の叙述中に用いられている頻度を計量化する。④地方志については序跋文の精読に、碑記については碑文生成現場の目的意識の刻印を読み解くことに努め、生成論的に史料性を解明し、地域性を探る。

(3) 内外の研究協力者との国際学術交流や比較史的検討を重視し、地方志・碑記の解析手法や近世中国東南沿海地方の地域性・歴史性の解明に向けたシンポジウム等を積極的に開催する。また個別の研究成果を、内外の研究協力者とともに、米国で開催のAASやトルコで開催のICANAS等の国際会議でパネルを組織し、段階的に公表していく。

## 4. 研究成果

### (1) 研究の主な成果

①研究代表者の須江は、寧波・紹興・蘇州に残存する宋代以降の地方志に関する系統的整理と序跋文の精読及び訳注稿の作成を通じ、各地方志の編纂意図・過程を明らかにし、地方志の史料性や活用の可能性を公にした。また各地方志の叙述内容、特に長期間記録された言説の史料論的解析を碑記と関連づけて行ったことにより、各地方の地域性や歴史性の解明にも寄与できた。一方碑記に関しては、項目別整理の作業を継続するかたわら、その史料性や解析手法も呈示した。例えば碑文・金石書・地方志の叙述の在り方を比較検討し、各種史料の特質と関連性を明らかにした。加えて、地方志・碑記研究の研究史整理も行い、課題と展望を内外に発表した。

②研究分担者(連携研究者)の伊原は、寺院・橋梁・道路への寄進額を当該史料より抽出・整理し、計量的分析を施すデータ作成に顕著な成果を得た。またそれら寄進額を検討し、宋人の貨幣感覚に関するデータ表の作成に着手した。更に碑記や地方志に見える都市図解析にも成果を得、雑誌論文での公表に加え、図書も刊行した。地方志や石刻中の叙述から、建康府などの詳細な都市図復元作業も試みた。上記を通じ、碑記・地方志の史料性解明や計量的解析法の深化に貢献した。

③地方志・碑記研究における国際学術交流と比較史的検討が飛躍的に進展した。海外研究

協力者等の招聘を伴う4回の公開研究会を主催し、内外の国際的会議やシンポジウムで多国籍の研究者や他分野の研究者からなるパネルを3度企画・組織した。いずれも米・英・独・仏・蘭・中・台湾等の研究者との学術交流を深化・拡大させるものとなった。また古代ギリシア史・ヴェトナム史等の分野の成果と比較することにより、中国史における地方志・碑記の史料性及び研究の特徴が浮き彫りとなった。なお須江・伊原ともに、本研究成果の一部を英文・中文で海外に複数発信した。

④一般国民への成果発信にも力を入れた。須江は比較史的視点から碑記に関する成果を分かり易く論じた特集号を『アジア遊学』で組んだ。伊原は一般国民への成果還元のための広報活動として、朝日カルチャーセンターで講演を複数回担当し、NHKの世界遺産番組への資料提供も行った。

(2) 得られた成果の位置づけとインパクト

①本研究では、近年盛んな中国地域史研究に警鐘を鳴らすべく、地方志・碑記の史料性の吟味や緻密な分析の必要性を強調した。従って今後、内外の研究者が地方志や碑記を活用する際には、必ず参考に資すべき内容を本成果は有していると思われる。実際に碑記を駆使して明代教育史研究を行った研究協力者のSarah Schneewind等から自身の研究の見直しに関するコメントが寄せられた。

②従来乏しかった宋・元・明時代の地方志・碑記の史料性や活用法に関する討議が、国籍や研究環境を異にする研究者間で活発になされた意義は大きいし、今後の新たな社会史研究の可能性を呈示できた点は重要である。また海外への外国語による成果発信は、我が国の中国史研究者が得意とする史料論的成果を、国際的にアピールすることになった。

(3) 今後の課題と展望

①本研究で十分に着手できなかった浙江省の台州・温州等の地方志・碑記に関する系統的・項目別整理や史料論的研究等については、今後の継続課題とし、引き続き近世中国東南沿海地方の地域性・歴史性の解明に向けて努めていきたい。その上で、5年次に及んだ本研究成果との総合化をはかる必要がある。

②継続的に実施した地方志の系統的分析や序跋文訳注稿作成、碑記の史料蒐集・項目別整理、地方志・碑記の計量的分析データ作成については、各種作業を更に展開・深化させ、研究の便を図るべく、データベース化や研究用基礎ツールの刊行などを目指したい。

③新たに形成できた海外及び異分野研究者との人的ネットワークは、今後広く本研究の発展的成果を国際的かつ比較史的に発信していく上で不可欠であるので、関係を密接かつ発展的に維持していきたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計41件)

- ① 須江 隆、『清明上河図』の時代における信心の世界、『清明上河図』と徽宗の時代(勉誠出版)、印刷中、2010、査読有
- ② 須江 隆、分析有关绍兴府城隍庙的史料群—碑文、录文集、地方志—、宋代寧紹地域的社會与文化(河南大学出版社)、印刷中、2010、査読有
- ③ 須江 隆、地方志、石刻—日本宋代地域史料研究的現状与課題—、日本宋史研究的現状与課題(河南大学出版社)、印刷中、2010、査読有
- ④ 須江 隆、一个北宋文人的日常与生平—着重解析朱长文之墓表及墓志铭—、宋代文献资料学的新的可能性(河南大学出版社)、印刷中、2010、査読有
- ⑤ IHARA Hiroshi, Development and Direction of the Study of Song History in Japan over the Past Two Decades: with a Focus on Regional History, *Journal of the Economic and Social History of the Orient*, 53, 印刷中, 2010, 査読有
- ⑥ 伊原 弘、宋元时期的南京城—关于宋代建康府复元作业过程之研究—、都市繁华—1500年来的东亚城市生活史—(复旦大学出版社)、印刷中、2010、査読有
- ⑦ SUE Takashi, The Structure of Regional Society as Seen from Local Historical Documents: Focusing on the Southeastern Shoreline Areas from Song to Ming, *East Asian Maritime History*, 10, 印刷中, 2010, 査読有
- ⑧ IHARA Hiroshi, Numerical Indices that can Reveal the Life of Song Commoners, *East Asian Maritime History*, 10, 印刷中, 2010, 査読有
- ⑨ 須江 隆、地方志・石刻研究、日本宋史研究の現状と課題—1980年代以降を中心に—(汲古書院)、pp.155-176、2010、査読有
- ⑩ SUE Takashi, Updates on Song History Studies in Japan: Local Gazetteers and Stone Inscriptions, *Journal of Song-Yuan Studies*, 39, pp.143-161, 2009, 査読有
- ⑪ 須江 隆、寧波とその周辺—地方文献に見える史料性・地域性・歴史性—(国際シンポジウム報告)、青波、第5号、pp.22-24、2009、査読無
- ⑫ 伊原 弘、宋・元代の南京城—宋代建康府復元作業—、比較都市史研究、28巻1号、pp.31-54、2009、査読有
- ⑬ 伊原 弘、宋代社会と錢—庶民の資産力

- をめぐって一、宋銭の世界(勉誠出版)、pp. 9-28、2009、査読有
- ⑭ 須江 隆、宋代地誌序跋文考(二)一乾道『四明圖經』の史料性に関する二、三の考察一、人間科学研究、6号、pp. 36-61、2009、査読有
- ⑮ SUE Takashi, Revelations of a Missing Paragraph: Zhu Changwen (1039-1098) and the Compilation of Local Gazetteers in the Northern Song China, *Journal of the Economic and Social History of the Orient*, 52-1, pp. 57-84, 2009, 査読有
- ⑯ 須江 隆、Joseph Dennis「紹興府の地方志の歴史的価値」(翻訳)、科学研究費補助金・特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」文献資料研究部門調整班、地方志・碑記班主催 第4回国際シンポジウム「寧波とその周辺一地方文献に見える史料性・地域性・歴史性一」予稿集(東大教材出版)、pp. 45-55、2009、査読無
- ⑰ 須江 隆、記録された言説と信仰一寧波の地方志と碑文を中心に一、科学研究費補助金・特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」文献資料研究部門調整班、地方志・碑記班主催 第4回国際シンポジウム「寧波とその周辺一地方文献に見える史料性・地域性・歴史性一」予稿集(東大教材出版)、pp. 26-42、2009、査読無
- ⑱ 須江 隆、从祠庙记录看“地域”观、宋代社会的空间与交流(河南大学出版社)、pp. 352-373、2008、査読有
- ⑲ 須江 隆、『呉郡圖經續記』の編纂と史料性一宋代の地方志に関する一考察一、東方学、116輯、pp. 109-126、2008、査読有
- ⑳ 須江 隆、ある北宋知識人の日常と生涯一朱長文に関する伝記史料の解析を中心に一、史叢、78号、pp. 58-73、2008、査読有
- ㉑ 伊原 弘、描かれた北宋末期華北の聚落の景観一かさねて『清明上河図』をよむ一、立正史学、103号、pp. 70-88、2008、査読有
- ㉒ 須江 隆、宋～清時代の紙に写された碑文一紹興府城隍廟に関する史料群を中心に一、人間科学研究、5号、pp. 24-54、2008、査読有
- ㉓ 伊原 弘、日宋貿易研究とその今日的意義について、新訂日宋貿易の研究 新編森克己著作集1(勉誠出版)、pp. 439-452、2008、査読無
- ㉔ 伊原 弘、『サマルカンドの金の桃』を監修して、アジア遊学、107号、pp. 106-108、2008、査読無
- ㉕ SUE Takashi, Rocks copied on Papers during Song-Qing era: Why were Stone Inscriptions Recorded in Local Gazetteers?, *What Do Rocks and Papers Tell Us? : Building a New Theory of Chinese Local History Documents*, *ICANAS* 38, pp. 24-62, 2007, 査読有
- ㉖ IHARA Hiroshi, What Do Rocks and Papers Tell Us? : Building a New Theory of Chinese Local History Documents, Introduction, *What Do Rocks and Papers Tell Us? : Building a New Theory of Chinese Local History Documents*, *ICANAS* 38, pp. 1-3, 2007, 査読有
- ㉗ 須江 隆、宋代石刻の史料的特質と研究手法、唐代史研究、10号、pp. 27-46、2007、査読有
- ㉘ 伊原 弘、「中国社会の持続と変容一その論理と実際」序言、第52回国際東方学会議シンポジウムV「中国社会の持続と変容一その論理と実際」予稿集、pp. 1-6、2007、査読無
- ㉙ 須江 隆、中国近世地域史料研究の可能性、アジア遊学、100号、pp. 36-39、2007、査読無
- ㉚ 伊原 弘、中国社会史の確立とその波及へむかって、アジア遊学、100号、pp. 12-15、2007、査読無
- ㉛ 伊原 弘、第五十九回米國アジア研究學會年次總會、ボストン總會参加記、東方学、114輯、pp. 121-128、2007、査読無
- ㉜ 伊原 弘、特集一第38回国際アジア・北アフリカ研究会議一その学術的成果と意義一宋代パネルからの報告、東方學會報、93号、pp. 11-13、2007、査読無
- ㉝ 伊原 弘、『四明叢書』別集解題、青波、2号、pp. 4-10、2007、査読無
- ㉞ 須江 隆、宋代地誌序跋文考(一)一北宋朱長文『呉郡圖經續記』三卷 元豊七年(一〇八四)修一、人間科学研究、4号、pp. 18-35、2007、査読有
- ㉟ 伊原 弘、「宮廷都市の政治的象徴性と内的空間」問題の理解と碑石資料について、文献資料研究部門 地方志・碑記班 第2回公開研究会「宮廷都市の政治的象徴性と内的空間」予稿集、pp. 4-19、2006、査読無
- ㊱ 須江 隆、刻石されなかった墓表の一節一米芾撰「朱長文墓表」一、アジア遊学、91号、pp. 115-125、2006、査読無
- ㊲ 須江 隆、碑記に刻まれた反乱の風説一方臘伝説の成立と拡大一、アジア遊学、91号、pp. 36-49、2006、査読無
- ㊳ 伊原 弘、寧波で発見された博多在住の宋人寄進碑文統論、アジア遊学、91号、pp. 50-59、2006、査読無
- ㊴ 伊原 弘、地図と石刻された都市空間、

アジア遊学、91号、pp. 126-133、2006、  
査読無

- ④ 伊原 弘、泉州の異邦人と外来宗教、港  
町のトポグラフィー(深澤克己編、青木  
書店)、pp. 173-192、2006、査読有
- ④ IHARA Hiroshi, The Society of Elites  
in Southern Song Sichuan, 中国近世以  
降教育与地方文化発展(台湾大学東亜文  
明研究中心), pp. 15-25, 2005, 査読有

[学会発表](計20件)

- ① IHARA Hiroshi, Changes in Land and  
Society in China over the Past 1,000  
Years: With a Focus on Nature,  
Landscape, Demography, and Socio-  
cultural Exchange (Organizer,  
Chairperson), 54th International  
Conference of Eastern Studies, 15. 5.  
2009, Japan Education Center
- ② 伊原 弘、宋元時期的南京城—関于宋代  
建康府復原作業過程之研究—、都市繁  
華: 1500年来的東亜城市生活史国際学術  
研討会、2009年3月26日、復旦大学文  
史研究院
- ③ 須江 隆、「寧波を中心とした記録保存  
の社会文化史」研究に向けて、科学研究  
費補助金・特定領域研究「東アジアの海  
域交流と日本伝統文化の形成」第1回「重  
点項目(イ)寧波を中心とした記録保存  
の社会文化史」研究会、2009. 1. 31、信  
州大学人文学部
- ④ 須江 隆、寧波とその周辺—地方文献に  
見える史料性・地域性・歴史性—(主催  
者・趣旨説明・司会者)、科学研究費補助  
金・特定領域研究「東アジアの海域交流  
と日本伝統文化の形成」文献資料研究部  
門調整班、地方志・碑記班主催 第4回国  
際シンポジウム、2009. 1. 10、東京大学  
文学部
- ⑤ 須江 隆、記録された言説と信仰—寧波  
の地方志と碑文を中心に—、科学研究費  
補助金・特定領域研究「東アジアの海域  
交流と日本伝統文化の形成」文献資料研  
究部門調整班、地方志・碑記班主催 第4  
回国際シンポジウム「寧波とその周辺—  
地方文献に見える史料性・地域性・歴史  
性—」、2009. 1. 10、東京大学文学部
- ⑥ 伊原 弘、寧波とその周辺—地方文献に  
見える史料性・地域性・歴史性—(主催  
・総合司会)、科学研究費補助金・特定領域  
研究「東アジアの海域交流と日本伝統文  
化の形成」文献資料研究部門調整班、地  
方志・碑記班主催 第4回国際シンポジ  
ウム、2009年1月10日、東京大学文学部
- ⑦ 須江 隆、地方志における叙述活用の可  
能性—乾道『四明圖經』の史料性に関す  
る二、三の考察を中心に—、科学研究費

補助金・特定領域研究「東アジアの海域  
交流と日本伝統文化の形成」文献資料研  
究部門・重点項目「寧波を中心とした記  
録保存の社会文化史」主催国際ワークシ  
ョップ「宋代社会文化史研究の方法論を  
めぐって」、2008. 12. 13、愛媛大学法文  
学部

- ⑧ 伊原 弘、日中交流史料の新たな世界  
(コメンテーター)、科学研究費補助金・  
特定領域研究「東アジアの海域交流と日  
本伝統文化の形成」文献資料研究部門・  
日記班・黒潮班共催・国際シンポジウム  
「10-14世紀東アジアの外交交流史料」、  
2008年9月20日、高知大学附属図書館  
メディアホール
- ⑨ SUE Takashi, Writing, Publishing, and  
Reading Local Histories in Song, Yuan,  
and Ming China (主催・趣旨説明)、文献資  
料研究部門 地方志・碑記班 第4回公開  
研究会、2008. 2. 27、広島大学大学院文  
学研究科
- ⑩ IHARA Hiroshi, Writing, Publishing,  
and Reading Local Histories in Song,  
Yuan, and Ming China (Chairperson),  
第38回東アジア海域講演会(地方志・碑  
記班 第4回公開研究会)、27. 2. 2008,  
広島大学大学院文学研究科
- ⑪ SUE Takashi, Rocks copied on Papers  
during Song-Qing era: Why were Stone  
Inscriptions Recorded in Local  
Gazetteers? , 38th International  
Congress of Asian and North African  
Studies, 12. 9. 2007, TOBB University  
of Economics and Technology, Turkey
- ⑫ IHARA Hiroshi, What Do Rocks and  
Papers Tell Us? : Building a New Theory  
of Chinese Local History Documents  
(Chairperson), 38th International  
Congress of Asian and North African  
Studies, 12. 9. 2007, TOBB University  
of Economics and Technology
- ⑬ 須江 隆、地方志・石刻史料研究—日本  
における宋代地域史料研究の現状と課  
題—、科学研究費補助金・特定領域研究  
「東アジアの海域交流と日本伝統文化  
の形成」特別企画: にんぷろワークショ  
ップ2007「日本宋史研究の現状と課題」、  
2007. 7. 21、九州大学西新プラザ
- ⑭ 伊原 弘、中国社会の持続と変容—その  
論理と実際—(総合司会)、第52回国際  
東方学会議シンポジウムV(第3回総  
括班主催国際シンポジウム)、2007年5  
月18日、日本教育会館
- ⑮ SUE Takashi, Revelations of a Missing  
Paragraph: Zhu Changwen and the  
Compilation of Local Gazetteers in the  
Northern Song, 59th Annual Meeting of

Association for Asian Studies,  
24. 3. 2007, Boston Marriott Copley  
Place, U. S. A.

- ⑯ IHARA Hiroshi, Rock, Paper, Scissors:  
Stone Inscriptions, Local Gazetteers,  
and the Regional Past in Imperial  
China (Chairperson), 59th Annual  
Meeting of Association for Asian  
Studies, 24. 3. 2007, Boston Marriott  
Copley Place, U. S. A.
- ⑰ 須江 隆、墓表と墓誌銘から読み解く  
ある北宋知識人の日常と生涯、科学研究  
費補助金・特定領域研究「東アジアの海  
域交流と日本伝統文化の形成」・基盤研  
究(B)(1)「墓より見た中国宋代の社会構  
造」主催 国際ワークショップ「墓・墓誌  
からみた宋代社会—家族・エリート・地  
域—」、2006. 9. 10、広島大学学士会館
- ⑱ 須江 隆、宋代石刻の史料的特質と研究  
手法、唐代史・宋代史合同研究会シンポ  
ジウム「石刻史料からみた唐宋元の社会  
と文化」、2006. 8. 2、ホテル信濃プリ  
ンスシラカバ
- ⑲ 須江 隆、中国における石刻史料の特徴  
と史料の意義、文献資料研究部門 地方  
志・碑記班 第1回公開研究会「歴史史料  
における石刻史料の意味と役割」、  
2006. 3. 16、財団法人東方学会
- ⑳ 須江 隆、歴史史料における石刻史料の  
意味と役割(主催・趣旨説明)、文献資料  
研究部門 地方志・碑記班 第1回公開研  
究会、2006. 3. 16、財団法人東方学会

〔図書〕(計14件)

- ① 須江 隆 [編著]、汲古書院、碑と地方  
志—寧波とその周辺の記録のアーカイ  
ブスをさぐる—、2010、印刷中
- ② 伊原 弘 [編著]、『清明上河図』と徽宗  
の時代、勉誠出版、2010、印刷中
- ③ 伊原 弘 [編著]、宋銭の世界、勉誠出  
版、2009、全350頁
- ④ 伊原 弘 [単著]、中国都市の形象—宋  
代都市の景観をよむ—、勉誠出版、2009、  
全288頁
- ⑤ 伊原 弘 [編集]、続々日宋貿易の研究  
新編 森克己著作集3、勉誠出版、2009、  
全460頁
- ⑥ 伊原 弘 [編集]、続日宋貿易の研究 新  
編 森克己著作集2、勉誠出版、2009、全  
441頁
- ⑦ 須江 隆 [編著]、東大教材出版、科学  
研究費補助金・特定領域研究「東アジア  
の海域交流と日本伝統文化の形成」文  
献資料研究部門調整班、地方志・碑記班主  
催 第4回国際シンポジウム「寧波とそ  
の周辺—地方文献に見える史料性・地域  
性・歴史性—」予稿集(非売品)、2009、

全178頁

- ⑧ 伊原 弘 [編集]、新訂日宋貿易の研究  
新編 森克己著作集1、勉誠出版、2008、  
全469頁
- ⑨ 伊原 弘 [共著]、宋と中央ユーラシア、  
中央公論新社、2008、pp.13-275、  
pp.500-512、pp.535-541
- ⑩ SUE Takashi, ed. Tateno Corporation,  
What Do Rocks and Papers Tell Us? :  
Building a New Theory of Chinese Local  
History Documents (38th ICANAS 2007  
予稿集)(非売品)、2007、全140頁
- ⑪ 伊原 弘 [監修・序文]、サマルカンドの  
金の桃：唐代の異国文物の研究、勉誠出  
版、2007、全517頁
- ⑫ 須江 隆 [編著]、勉誠出版、「特集 碑  
石は語る」『アジア遊学』第91号、2006、  
全192頁
- ⑬ 伊原 弘、王朝の都 豊饒の都市—中国  
都市のパノラマ、(社)農山漁村文化協  
会、2006、全206頁
- ⑭ 須江 隆・伊原 弘 [共編]、文献資料研  
究部門 地方志・碑記班 第2回公開研究  
会「宮廷都市の政治的象徴性と内的空  
間」予稿集(非売品)、2006、全109頁

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/maritime/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

須江 隆 (SUE TAKASHI)

日本大学・生物資源科学部・准教授

研究者番号：90297797

(2) 研究分担者(2005年度-2007年度)

伊原 弘 (IHARA HIROSHI)

城西国際大学・国際人文学部・教授

研究者番号：80337807

(3) 連携研究者(2008年度-2009年度)

伊原 弘 (IHARA HIROSHI)

城西国際大学・国際人文学部・講師

研究者番号：80337807

(4) 研究協力者

師尾晶子 (千葉商科大学)

Bettine Birge (南カリフォルニア大学)

Angela Schottenhammer (ミュンヘン大学)

Christian de Pee (ミシガン大学)

Anne Gerritsen (ウォーウィック大学)

Joseph Dennis (デヴィッドソン大学)

Sarah Schneewind (カリフォルニア大学)

TJ Hinrichs (コーネル大学)